1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1293200018		
法人名	株式会社 リエイ		
事業所名	コミュニケーション24 浦安いまがわ館		
所在地	千葉県浦安市今川2-13-10		
自己評価作成日	2017/9/19	評価結果市町村受理日	平成29年11月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会
所在地	東京都世田谷区弦巻5-1-33-602
訪問調査日	平成29年10月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念に基づき、その入らしさと地域資源の活用を心掛けて、不適切な介護の廃絶、マナーと介護の質の向上に努めております。
ご家族との時間も大切に、在宅復帰に向けた支援や看取りまでの支援、どちらもその方への普段の介護の質の延長線上にある結果であり、いまがわ館では笑顔多く、少しでも楽しく過ごして頂ける様に心掛けております。
グループホームの介護の利点である、少人数で自由の利く点を利用活かし、個々に寄り添った支援と、基本的介護の質にこだわっています。
認知症介護のプロとしてBPSDへの対応をいかに利用者本位で行なえるかを常に考えて支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. JR新浦安駅から約1kmの、瀟洒で閑静な住宅街に立地したホームです。建物内の要所はバリアフリーで、居室には洗面台、トイレ、大きなクローゼットが備わり、廊下に椅子(兼収納箱)が置かれる等、利用者により優しい作りになっています。現在本社指導の下、労働力不足対応とサービス向上の為、介護に先端技術取り入れの試み(共用場所の見守りシステム化、介助強化器具の使用等)をしています。
2. 健康・医療面では、認知症に詳しい内科医の月2回訪問(24時間オンコール)と看護師2名(常勤及び非常勤職員各1名)による健康チェック体制になっており、利用者・家族に安心感を与えています。
3. 各種改善事例がある他、施設内で各種委員会を設置したり、独自アンケートを実施したり、前回外部評価での課題事項(5件)を大幅に改善する等、サービス向上に熱心に取り組んでいる施設です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	前回(2年前)の外部評価前に職員独自の理念を作成したが、地域という言葉が無く、当初の理念も含み掲げ直し、地域に溶け込みその人らしい暮らしを守るための職員倫理としました。	地域密着を織り込んだ2項目の理念と4つの「心がけ」を掲示し、職員は、毎日のミーティングや毎月の職員会議で、確認・共有し、日頃のサービスで実践に努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の祭りや催しにも参加し、交流を図る一方、介護の相談窓口としても利用して頂ける様にチラシなどを地域に配って周知しました。	自治会に加入し、地域の夏祭り、敬老会に参加したり、近くの小学校と交流したり、各種ボランティアを受け入れています。地域社協主催の「ふれあい広場」に参加し、主催者からの介護の講師依頼には前向きに検討しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度、初となるグループホーム説明会を開催し、認知症についての講和とグループホームの説明を地域の方に向け、無料セミナーという形で開催しました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	リエイという会社自体の動きもお知らせしたり、看取り介護についてや、改めて認知症に対する理解というもの、地域貢献ということで毎回意見をいただき取り入れています。古切手、ペットボトルキャップの回収もその一つです。	会議は年6回、市担当、地域包括支援センター、民生委員、家族(3、4名参加)、ボランティア、職員で開催しています。議題は、入居者状況、事故報告、行事報告、アンケート結果、感染症対策等を取り上げ、意見交換しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	今年度から生活保護受給者の方の受入れも開始し、より密に介護保険課だけでなく、包括や社会福祉課の方とも連携を取るようになり協力関係を築いています。	管理者は、必要な都度市担当に報告・説明・相談しています。又地域包括支援センターには、できるだけ会議に出席もらい、その意見・情報を運営に役立てています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	禁止行為、三原則、魔の3ロック(+1)など勉強会で繰り返し学ぶ事で、職員も拘束をゼロにする使命を持ち、ケアの質の向上に努め、従事しています。	年間研修計画に従い、職員は必ず身体拘束廃止項目を受講する事になっている他、内部の身体拘束廃止委員会の活動内容が定期的に全職員に報告されています。昼間玄関は施錠せず、職員は見守りに徹しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会にて学び、実践的な事例を取り入れながら話し合い、虐待の防止、それに繋がる不適切なケアの廃絶に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業については学ぶだけで、まだ利用などの経験はないものの、生活保護の方の受入れに当たり、成年後見人制度も改めて権利擁護の勉強会で触れ、学びました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については重要事項に沿った説明、質問にもお答えし契約を行なっています。 料金の改定や加算の変更には書面を以っての通知とその後の電話や直接の口頭での説明も行なっています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回のご家族様向けのアンケートの実施、毎月のお便りでのやり取り、ご入居者様には毎月、市から派遣された介護相談員の受入れを行ない、その結果報告会議にも年2回参加しています。	家族の訪問時、電話連絡時、運営推進会議時(3、4名家族出席)に意見・要望を聞き、運営に反映させています。従来から独自アンケートを実施していますが、今年から、現場に沿った20項目のアンケートに改定し、原案も出来上がっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会社には社内提案制度を設けていますし、職員による業務改善委員会も開催されています。	法人として、社内提案制度(職員が直接提案できる)及び就労に関する業務改善委員制度(各施設で1名代表を選び、2ヶ月に1回本部との話し合いを行う)が設けられています。職員からも「非常に風通しが良い」との声がありました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与テーブルによる評価と、賞与の評価を行なう人事考課を行なっています。会社の声を職員に届けるよりも、現場職員の声を本社に届けることの重要性を意識して取り組んでいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人差はどうしても出てきてしまいますが、まずは個々の良い部分を伸ばすことで、おのずと弱い部分を本人が自覚するのを待ち、自らが弱点を克服するという意識を高め、そこでの的確な克服方法などについて話し合いを持ち実践しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	浦安市は事業所交流も盛んだと思っています。事例発表会の開催などもあり、交流の場も年々増えてきています。11/11の介護の日には地域密着型サービス事業者が駅前では告知活動を行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント時に要望を伺い、生活環境やペースを大切にすることを心掛けると共に、ご本人とご家族との繋がりを重要視して、安心して頂ける生活環境を構築できるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の想いは、複雑かつ測りえぬことであり、これまでの事例などの話を具体的にあげることで分かりやすく、悩みや要望に添えるよう努力することを伝えるようにしております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	適切な支援を行なう為に、訪問看護やリハビリ、環境を整えるための福祉用具業者との連携なども図っており、緊急での受け入れも対応できるよう常日頃から職員の理解とスキルを高めることに努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	笑顔を大切に、それぞれが活躍や中心となれるもの、事柄を見つけて生活の中に取り入れられるように心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との外出や行事への参加も促しながら、交流を深めたり、終の棲家としての機能も担いながらも、基本理念は在宅復帰であることを念頭に心掛けています。昨年は実際に2名が入院⇒入所⇒在宅への復帰をされています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との時間の支援、面会時間の緩和で夜間の面会も受け付けているので、仕事帰りに来られるご家族も多い。また旅行や法事への参加、墓参りの支援なども行なっています。	面会時間を拡大したこともあり、仕事帰りや夜間の20時台に来ることができ、今回実施した家族アンケートでも「曜日・時間に関係なくいつでも自由に行けるので有難い」との意見が出ています。家族と一緒に旅行に行ったり、食事を差し入れるなど、これまでの関係継続支援を心掛けています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	競い合い、トラブルになることもありますが、それでも強調し合い、笑い合える関係であるように職員が入り込み、支援をする、個々を理解し信頼関係を築く努力を惜しまぬように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅復帰をされた方へのお便りや、亡くなられたご家族との交流も図っている。推進会議での体験談は他ご家族にとっても興味があり説得力のある貴重な話の為、お招きしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	睡眠、食事、排せつ、補清などは生きるための基本的欲求であるとともに、侵されたくない部分でもあります。本人本位の暮らしを考えるうえで、職員はまずはその基本から考えて、その他の意向に繋がる、広げる努力をしています。	契約時のアセスメントや日常の会話の中から、思いや意向を把握する様になっています。一緒にアルバムを見て出てくる「主人のお墓参りに行きたい」との願望に応えたり、以前好きだったと思える花を飾って喜ばれる等、利用者に合わせて支援をしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人との関わりの中で、発見したことをご家族と共有することで、事実や新しい事柄の把握に繋がっています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	特に心身状態の変化が懸念される方には個人記録の書式を変更し、状況の把握に努めています。有する力についてもそれを知るための試みを忘れないことに努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護職員の気付きを一つ一つ丁寧に拾い、皆で検討しプランに反映させているつもりです。また、アイデアについても可能な限り迅速に対応し試みしています。	家族からは面会時や電話で要望を聞きとるようにしています。職員からはカンファレンスで話し合ったり、訪問医からは往診時の指示を参考に介護計画を作成しています。見直しは半年を基本とし、体調に合わせた随時の見直しを行っています	家族からは要望の聞き取りを行っていますが、アンケートには「説明は受けたが話し合っていない」との答えが多いので、話し合いの方法を検討することが望まれます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録をもとに、より観察が必要な方へは書式を変更したもの、連絡事項は申し送りノートなどを活用し、情報を共有し、それを常に確認しながら申し送りをすることで伝達ミスの廃絶に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活全般を支援するので、介護だけでなく、受診なども対応するのが当たり前であり、里帰りの支援や個別での友人を訪ねる支援なども行っている。時間帯も関係なく必要に応じて応援が出来るように備えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ケア会議などでの他施設との交流や、ボランティアの受入れ、障害者支援のお菓子の販売の来訪、学童児童の来訪など地域で活動している資源の活用と交流を行ない生活の充実に努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在17名が協力医療機関の往診を受けています。1名は入所前からお世話になっている医師の往診を継続しています。また、大学病院の専門科の受診も継続されている方もいますので、出来る限り医療面でも希望に添えるように支援しております。	協力医療機関から往診医が月2回来ていますが、今までのかかりつけ医にも自由に受診でき、付き添いも施設が協力できるよう支援しています。往診医とも24時間体制がとられ、常勤の看護師もいる為、安心できる医療支援に取り組んでいます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤1名、常勤1名(準看、介護職兼務)がいがわ館に勤務しており、常に職員との情報の共有を行っており、クリニックや訪問の看護師とも連絡を取り合っています。受診に関しては情報提供書、看護サマリーのやり取りを行なっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院者のADLの状況など、情報提供書、看護サマリーのやり取りを行なっています。ご家族の許可を得て、情報の公開をしてもらえるように、入院時の手続きにも立会い、お見舞い時や電話で、病状の変化や早期退院に向けての連絡を取り合っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にリビングウィルと看取りの同意書を交わすので、看取りの支援についての説明をしています。看取りや医療行為をどこまで行うかによっては療養型の施設等の検討もあるので、往診時にご家族に立ち会って頂き、医師、介護職員とともに本人にとっての最善の支援を検討しています。	契約時に家族と看取りの同意書を交わしています。体調の変化時には家族、往診医、施設長が話し合い、家族の要望を確認し、必要に応じて再度「同意書」を取り交わしています。今年は2名の看取りを経験し、職員に対しても、年1回看護師による研修の実施、看取り後の振り返り研修を行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応の訓練を毎年行っており、それに対するマニュアルの整備も行なっています。楽しく過ごしながらも有事の際にしっかりと対応できるよう危機意識をしっかりと持ち、常日頃からシミュレーションをしておくことを心掛けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を実施しています。特に夜間については近隣の協力も必要になりますので、訓練への参加はお願いはしていますが、参加には至っていません。しかしながら火事だと叫ぶ訓練は行っており、隣人にもお話ししています。	5月に夜間想定自主訓練を実施し、10月30日に消防署立会い訓練を予定しています。前回署から指摘された煙による識別困難対策として各部屋の出入口壁下に9種類の色板を貼っています。備蓄は、災害用品を含め3日分準備しています。	各種災害が多発していることを考慮し、年1回の災害訓練実施、人数分のヘルメット又は防災頭巾の準備、及び備蓄数量と持ち出し品の見直しが望まれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に心掛けないといけないことであり、介護者本位になってしまわないように、マナーインストラクターを中心に日々の介護の質を確認しています。また勉強会や定例会でも学びや確認を行なっています。	パート・常勤に関わらず毎月本社で新人研修を実施しています。本社で研修を受けた、マナーインストラクターを配置し、毎月「マナーチェックシート」を職員同士で査定し合い、定例会で話し合うなど、プライバシー保護に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の食事のメニューや外出レクの行先なども個人の意見を尊重したレクリエーションを開催したりしています。特に誕生日のメニューはご本人に食べたいメニューを聞いたり、好きな食材や故郷の味を意識して作っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	残念ながら、過ごす場所が館内には居室か食堂かと選択の余地が少ない中でも、本人のペースを重視して寄り添い支援することを行なっています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選びや補整には気を配っています。隔月に1回の理美容では、パーマや毛染めを行なう方もいらっしゃる。また、ご自分でマニキュアやお化粧をする方もいらっしゃるの、洗顔時にはメイク落としなどの使用を促しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニュー決めから買い物、調理に関して有している力や楽しみを広げるために、かまどを使用した羽釜でのご飯炊きや、炭火調理などを行ったり、ホットプレートの使用など楽しみながら美味しく食べる支援を行なっています。	食材はネットスーパーから週3回届き、職員は利用者の声を反映して献立を作成しています。利用者は調理や配・下膳を手伝っています。2か月に1回外食に行ったり、出前を取る等変化をつけ、誕生日には好きなものや郷土料理を作って喜ばれています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	補食も用意したり、時間を問わずに食べたい物を極力提供したりと支援しています。夜起きていれば小腹も減るので、夜食を提供したり、朝はパンでもご飯でも食べれる様に工夫したりしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に合わせ、歯ブラシやスポンジ、口腔用のウェットティッシュを使用したりと工夫して口腔ケアに努めています。デンタルの往診を受けている際にも口腔ケアの方法などについてアドバイスをできるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を基に、排泄がトイレで行なわれたのか、失禁だったのかをチェックして、排泄間隔を考慮した誘導を行ない、トイレで気持ち良く排泄できるように努めています。	居室にトイレがある為、排泄チェックシートを参考にトイレ誘導を行っています。オムツ者が2割で殆どガリハビリパンツを使用しています。入所後1年で在宅に復帰した例もあり、自立支援に努めています。人感センサーを設置し夜間の安全面にも配慮しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や散歩などの運動と共に、摂取量のチェックや、ヨーグルト、牛乳などの乳製品、ヤクルトを定期購入しているのでそちらの提供など出来る限り便秘の予防を図りつつ、医療面での薬の使用も含めて便秘の解消に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間を問わず、入浴の申し出に応えられるようにしています。午前中に入りたい方にはその時間帯に声掛けをしたり誘っています。ヒートショック対策や入浴剤の使用など、安全、安楽に対しても気を付けています。	入浴は原則週2回ですが、いつでも自由に入れるようにしています。浴室が狭い為、介助が必要な人にはシャワーチェアを使用したり、拒否の場合は日を変えたり清拭をして対応しています。入浴剤や季節の菖蒲湯、柚子湯などで変化をつけています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間の活動も含めて、個々の安眠を考えている。昼夜逆転など一定の生活リズムを保ちつつも本人のペースを守り支援を心掛けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の変化をしっかりと観察し、医師、看護師、薬剤師への報告で、必要最低限の薬で済むように心掛けている。食事などについても効果に影響のある食品は避けるように努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事においては、出来ることをただお手伝い頂くのではなく、気持ち良く行なって頂けるようお願いと、感謝を表すことを大切にしています。体操月間では参加シートを作成し、シールを押すなど参加が分かるようにして、少しでも張り合いが出るように心掛けた。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外に出たいという方には散歩だけでなく、ちょっとした買い物をして頂く事で、目的のある散歩にしたり、家族旅行の支援や、家族行事の参加において、送迎や補助などの支援も行なっています。	足りない食材を買いにスーパーやコンビニに行ったり、月1回は外出レクを行うなど外に行く機会を作っています。家族との旅行や美術館行き等の送迎や補助で参加したり、家族との絆を深めています。年間企画では初詣や、花見、夏祭り、紅葉見学、サンマ会、1泊旅行などの支援を行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が管理することで安心に繋がるような方には少額であるが自己管理をして頂いており、その他の方にも買い物の際に支払いを行なって頂くような支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちの方もおり、連絡の支援を行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お花が好きの方が多く、お花を買いに行き、生けていただくこと、テーブルに花があるだけでも雰囲気良くなったりすることを意識しています。トイレなどは気持ち良く使用できるように、清掃もこまめに行なう様になっています。スペースが狭いのもう少し整理整頓ができれば良いと考えています。	食堂兼リビングは、やや手狭間ですが、明るく、清潔で、温度・湿度も適切に調整され、利用者が寛いで過ごせる様に配慮されています。前回の外部評価で「リビングや廊下が雑然としている」とされましたが、現在は改善し整理整頓されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られたスペースの中で、玄関前のソファや天気の良い日には庭先のベンチなどで過ごす方もいらっしゃいます。手を繋いで庭先に出て花を見たり空を眺めたり、お茶を飲むなどゆったりと過ごしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具の配置や、クッション性のある床材、保護材などの使用で怪我をしない様に配慮している。また、仏壇を持ちこんだり、冷蔵庫などがある方もいらっしゃいます。職員も電源コードの配置など危険を考慮して安心安全な落ち着ける空間となるように工夫をしています。	居室は、エアコン・クローゼット・洗面台・トイレ・ベッド・カーテンが備付けで、清潔で適度の広さもあり、利用者が居心地良く過ごせる様になっています。転倒防止のため8室にセンサーを設置し、臭い対策の為にトイレ掃除に特に注意しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	構造上、ドアに手を挟む危険がある方、または挟んだことのある方には、ドアに防護材を装着しています。ベッドや床にクッション性のある素材を付けたりして工夫しています。		